ミクセル CB200Ba スピーカーキット
組立説明書





完成写真（前側）円筒部にブラック塗装を施しています。



完成写真（後側）円筒部にブラック塗装を施しています。

ミクセル CB200Ba は Tang Band W4-1320SD の取り付けが可能なスピーカーキットです。W4-1320SD のナチュラルでスッキリしたひずみ感の少ない音質と CB200Ba のユニークな構造が相まって、優れた音像再現と躍動感のある音楽再生を可能にしています。

■完成時仕様

型式：リアポートバスレス型
内容積：7.8 リットル
バスレフポート径：40mm
寸法：幅 223mm(フット部 243mm) 奥行約 325mm　高さ約 350mm

■組立に必要な工具

木工用ボンド、かなづち、スパナ（ペンチ等で代用可能)、濡れた雑巾等（はみ出た木工用ボンドのふき取り用）

■塗装に必要な物

塗料、筆、サンドペーパー

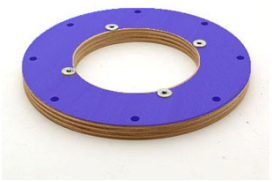
■塗装について

ブナ合板は木目も大変美しいものですので、塗装なしで組み立てるのも良いと思います。塗装なしでも大変良い音質を得る事が可能です。塗装を行っていただくとさらにクリアな音質になります。
円筒部分は外観的にも塗装をしていただいた方が良いと思います。一番手軽に行う方法は水性塗料を用いる方法です。筆ムラも出にくいのできれいに仕上がります。スプレーラッカーを使用するときれいに仕上がります。その場合は換気と火気には十分ご注意ください。

ブナ合板の部品に塗装を行う場合のご注意

以下の様な接合面には塗装をしないようにしてください。両面に塗装すると塗料が密着して、はずした時に塗装面が剥がれる事があります。

・バッフル板の裏側



・前側フットの裏側



・ポートの裏側



・ブナ合板の塗装

ブナ合板の表面は比較的滑らかですが、少し荒い場合はサンドペーパーで整えて下さい。切断面と角部分はサンドペーパーで滑らかにしてください。１回目の塗料を塗った後は表面が少しざらつきますので、300 番程度のペーパーで滑らかにしてから２回目の塗料を塗ります。

・円筒部分の塗装

リアバッフル MDF の表面は滑らかですので、そのまま塗装します。切断面はサンドペーパーで滑らかにしてください。円筒紙管は表面が滑らかですので、そのまま塗装します。１ 回目の塗料を塗った後は表面が少しざらつきますので、300 番程度のペーパーで滑らかにしてから２回目の塗料を塗ります。

■組立時のご注意

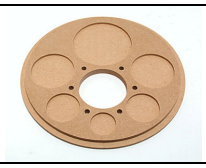
・ブナ合板や MDF の部品を扱う時は、角部分等が荒くなっている事がありますので、十分にご注意下さい。必要な場合はサンドペーパーなどで角を丸めて下さい。
・塗装をする時は換気にご注意下さい。
・ラッカー塗料やラッカーシンナーを使用する場合は十分火気にご注意下さい。

製造元

MIXEL **UNIQUE Design QUALITY Sound**

有限会社ミクセル
兵庫県西宮市堀切町 8-38-502　TEL 0798-34-2238

構成部品　１ペア＝２台分の部品が入っています。

番号	部品名称	数量	外観写真
1	メインバッフル板（ブナ合板）	2	
2	前側フット（ブナ合板）	2	
3	後側フット（ブナ合板）	2	
4	円筒紙管	2	
5	バッフル板（ブナ合板）	2	
6	リアバッフル板（MDF）	2	
7	ターミナル（赤）	2	
8	ターミナル（黒）	2	
9	吸音材（大）	2	
10	吸音材（小）	2	
11	バスレフポート取付板（MDF）	2	
12	バスレフポート	2	

番号	部品名称	数量	外観写真
13	鬼目ナットM8（前側フット用）	4	
14	鬼目ナットM5（バッフル板取付用）	16	
15	鬼目ナットM4（ユニット取付板用）	8	
16	六角ボルトM8（前側フット用）	4	
17	六角ボルトM5（バッフル板用）	16	
18	六角ボタンボルトM4（ユニット取付用）	8	
19	ケーブル（圧着端子＋ファストン端子付）	4	
20	六角レンチM8 六角レンチM5 六角レンチM4	各1	
21	爪付ナットM4（バスレフポート取付用）	12	
22	六角ボタンボルトM4（バスレフポート取付用）	12	
23	ウレタンスポンジ（接着テープ付）	4	

組み立て手順

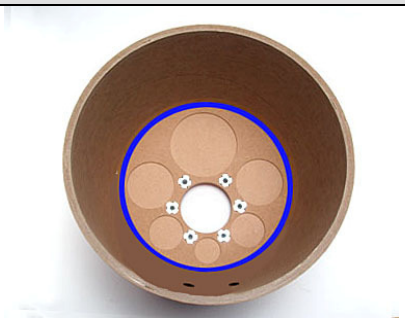
円筒部の組立



リアバッフル板に爪付ナット M4 を打ち込みます。



円筒紙管とリアバッフル板を接着します。ターミナル用穴とリアバッフルのバスレフポートのある方を同じ方向にしてください。



内側からリアバッフルと紙管の境界線（青線）にボンドを塗って強度を高めます。



←バスレフポートをバスレフポート取付板に接着します。ポート入口（赤矢印）を取付穴の中心間隔（青矢印）が 48mm の方向に来るように接着します。ポートの長い方をポート取付板に接着します。

★円筒部分に塗装を行う場合は、この時点で行うと便利です。

ターミナルの取付

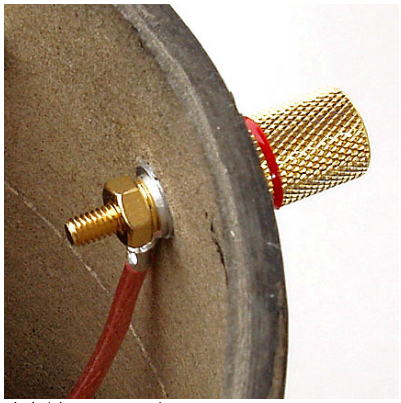
ターミナル（赤）にファストン端子（中）の付いているケーブル、ターミナル（黒）にファストン端子（小）の付いているケーブルつなぎます。
円筒紙管の 2 個の貫通穴に凸タイププラワッシャーの凸部分をはめ込みます。ターミナル本体を差し込んでからアルミワッシャー、圧着端子、スプリングワッシャー、ナットの順番に装着します。ケーブルはバスレフポートの方向に向けて、スパナでナットを締め付けてください。



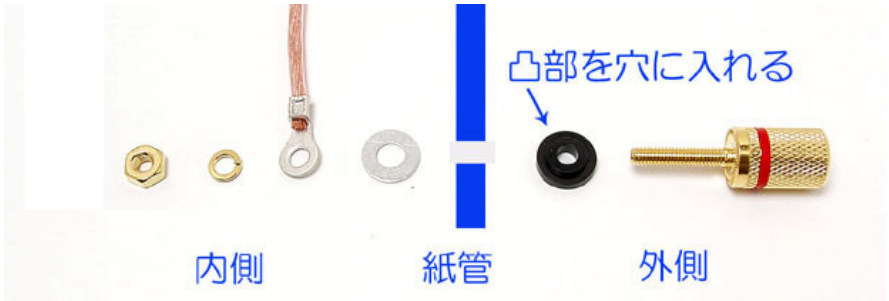
取付完了写真



外側からの写真



内側からの写真



部品の並び順（内側→外側）

吸音材の取り付け

吸音材（大）の長い方を円周周りになるように円筒紙管の内面に、そしてリアバッフル面も隠れるように敷設します。バスレフポートの上に吸音材（小）を載せます。次の工程でバッフル板と接着しますので少しずらしておきます。ケーブル先端も接着時にはさむといけませんので、吸音材にめり込ませておきます。



円周方向に吸音材（大）を敷く



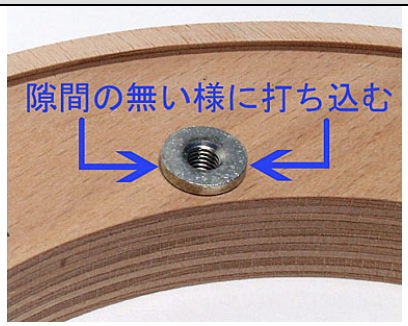
ポートの上に吸音材（小）を敷く



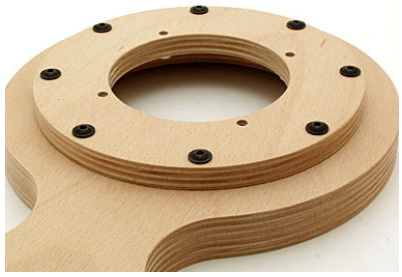
次工程接着のため 5cm 位ずらす。ファストン端子を吸音材にめり込ます

鬼目ナットの取り付け





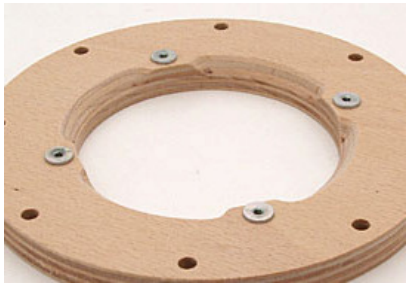
メインバッフル板に M5 鬼目ナット（各 8 個）をかなづちで打ち込みます。間隔の無い様に直角に打ち込みます。



（重要です！）鬼目ナットが正確に打ち込まれているか、バッフル板を M5 ボルトで取付けてチェックします。ボルトが入りにくい場合は鬼目ナットがちゃんと入っていませんのでかなづちで鬼目ナットを正確に打ち込んで下さい。（左写真参照）



メインバッフルの下部に鬼目ナット M8（各 2 個）を打ち込みます。

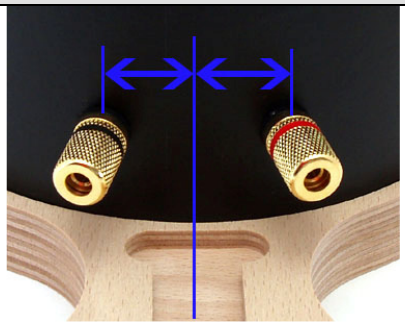


バッフル板のテーパーの付いている方に鬼目ナット M4（各 4 個）を打ち込みます

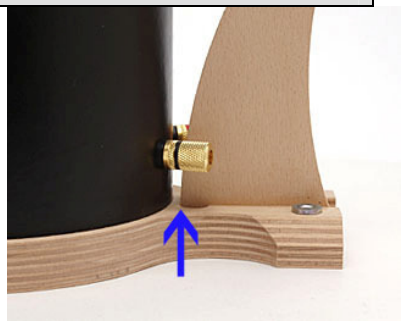
組立



メインバッフル板を平らな所に置き、円筒部分に木工用ボンドを十分に塗って接着して下さい。本などを沢山載せて下さい（10ｋｇ以上載せるのがベター）。はみ出た接着剤は濡れた雑巾で拭き取ります。ターミナルの位置にご注意ください（右写真参照）



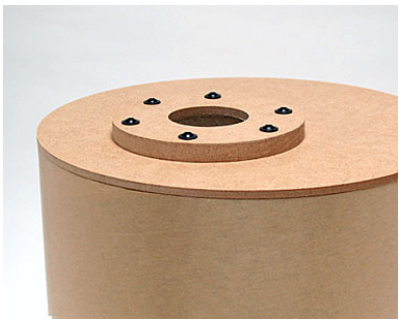
後側フット用の溝とターミナルを目安にして、バッフル板の中央に来るように円筒の位置を調節します。



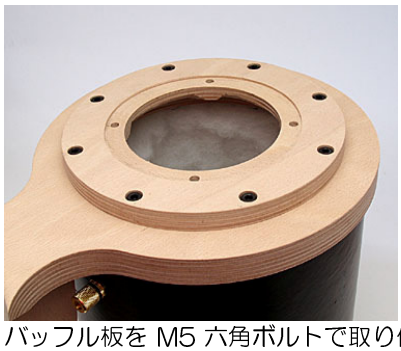
後側フットを接着します。接着剤を十分に塗って確実に接着します。上のようにフットの上端と溝のエンドを合わします。この状態で完全に接着するまで待ちます。



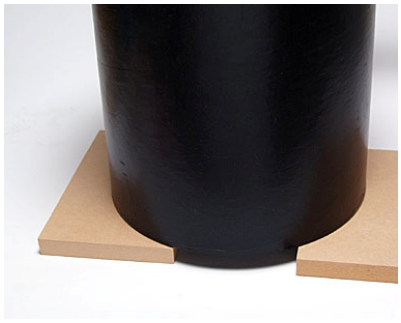
フット前を M8 六角ボルトで取り付けます。



バスレフポートを M4 ボタンボルトで取り付けます。



バッフル板を M5 六角ボルトで取り付けます。



円筒部の下に板などを置いて安定させると作業が行いやすくなります。



ファストン端子（中）とスピーカーの＋をつなぎます。ファストン端子（小）とスピーカーの-をつなぎます。M4 ボルトでユニットを固定します。ユニットの左右にウレタンスポンジを貼り付けます。



完成です。

★アフターケア

バスレフポートの中に吸音材を入れますと低音の量感の調節ができます。背面の壁との距離がとれない場合またはお好みで調整ください。吸音材を少し入れるだけでも変わる場合があります。

完成後しばらく経ちますと振動や木材が乾燥して板厚が薄くなるなどの原因でボルトが緩んできます。その時はボルトを増し締めしてください。特にバッフル板とメインバッフル板を接合している M5 ボルト（8 本）は緩んできますと音質を損なう場合がありますのでご注意下さい。前側フットは木工用ボンドなどで完全に固定しても良いと思います。